

わたしから始める、世界が変わる

# Hunger Zero News

2019. No.345 4  
ハンガーゼロ・ニュース



## contents

### ハンガーゼロ活動報告

ダブルスマイルサンタ支援地視察  
ナイトdeライト ウガンダツアー体験記

### 国内災害支援

災害支援ボランティアセンター実務講座  
「東日本大震災から8年」ほか

1分間に17人 (内12人が子ども)  
1日に2万5,000人が  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています

ウガンダツアーの学校訪問で



2月11日から15日、カンボジアのスバイルー地区の子どもたちを継続支援してくださっている「ダブルスマイルサンタ」から3名の方々が、FH（国際飢餓対策機構）カンボジアの活動地を訪問、報告してくださいました。



## ダブルスマイルサンタがFH カンボジアの活動を視察

### コミュニティの環境改善の重要性

西田大樹さん (写真④)

2回目の訪問でしたが、様々なコミュニティを訪れる中で、FHの支援のあり方を学びました。それは長期的に将来を見据えて支援しているということです。特にチャ



イルドサポータープロジェクトでは、子どもに直接物品を支給するのではなく、彼らをとりまく環境を改善していく重要性を学びました。また植樹プロジェクト(写真⑤)を訪れて、ココナッツ、カシューナッツ、マンゴーなどたくさんの換金作物が栽培されているのを見ました。去年と比べて、コミュニティ全体の衛生面が改善されていると感じました。ゴミの分別が行われ、ペットボトル、ビンなど売れる物を分けていたのが印象的でした。

### 村人とFHスタッフの厚い信頼関係

西本晴紀さん

FHの活動で印象的だったことは、一方的に支援を進めていくのではなく、彼らの文化に寄り添い、村長などと丁寧に関係を作って、村長にプログラムを理解してもらい、

それがコミュニティに広がっているという仕組みを見ました。僕たちがある村の人たちと話している時、担当のFHスタッフが来ました。その時村の人の顔が明るくなっているのを見て、厚い信頼関係があるのを感じました。



### 意識改革で学校に通う子どもが増える

中島綾菜さん



FHは人々に衛生や教育の大切さを理解してもらうために時間をかけていました。また終わりがあがる支援という言葉が印象的でした。支援が終わった後でも自分たちでやっていけるようになるためと学びました。

障がい者ショップの会議では、あれをしたいこれしたいと自主性が見られました。またほとんどの子どもが学校に行っていなかったある村では、FHの意識改革によって、3年たった今ほとんどの子どもたちが学校に行っているそうです。ポルポト政権時代の影響で教育を受けていない親がたくさんいました。

炊き出しに行った時、子どもたちが手を洗っていた水がとても濁っていて、日本のように蛇口をひねればきれいな水が出るのが、当たり前ではないんだと感じました。



**【メンバーへの質問】** FHでは障がいのある人たちが自立をし、自尊心を回復できるようにショップの経営を支援しています。健常者も含め46人が参加しています。

**Q** 新しく始めたいことはありますか

**A** メンバーが住んでいるそれぞれの村にこのような店を出したいです。レモングラスを栽培して、それから抽出されるオイルで化粧品、虫よけ等を作って輸出もして規模を拡大したいと思っています。また今あるガソリ

ン、水、通信データのプリペイドカードに加えて、スクールバッグや制服、収穫期に合わせて鎌やカゴ、鍬なども揃えたいです。

**Q** FHの介入で何が変わりましたか

**A** バラバラだったコミュニティが、協力できるようになりました。また収入が向上したことで、欲しいものが買え、子どもたちにより高等な教育を受けさせることができるようになってきました。障がい者への理解が進んだのも大きく変化の一つです。



**WorldSeed  
ダブルスマイル  
サンタとは？**

クリスマスに大阪府内の子どもがいるご家庭を対象に、大学生や社会人のボランティアスタッフが事前に親御さんからプレゼントを預かり、サンタクロースの恰好をしてお届けします。その「お届け料」に対してチャリティー募金をいただき、国際協力団体に贈られます。



◀ダブルスマイルサンタのHPより

**災害支援ボランティアセンター実務講座  
愛知事務所が地元支援ネットワークと開催**



去る2月25日、名古屋(会場：日本基督教団名古屋教会)で東海福音フェローシップ(以下、TEF)地震委員会とハンガーゼロ共催の災害セミナー&ワークショップ「災害支援ボランティアセンター実務講座①」を開催しました。

ハンガーゼロ愛知事務所は、東海地区の教会防災ネットワーク、TEF地震委員会のメンバーとして、災害時のネットワークづくりや防災カフェ・講演などの企画実施、国内被災地にボランティア派遣を行っています。災害セミナーは主要なテーマごとに、実践的にボランティアリーダーを育成する約4回のシリーズとして企画しました。

第2回目の今回は、講師にハンガーゼロ緊急支援リーダー伊東綾スタッフ(写真④右)を迎え、第一部はボランティア受付フォームやホームページ作成のワークショップ、第二部はボランティアセンターを立ち上げるための基礎知識や事例によるグループディスカッションなどを行いました。

**現場での実務をシュミレーション**

特に盛り上がったのは、国内外から来られる個人・団体ボランティアを、条件の異なるいくつかの作業現場に振り分けるワークショップです。各グループとも、外国人や一日だけのボランティアをどう受け入れるか、交通手段や時間帯などを考慮しながらの振り分けに頭を悩ませましたが、「初めてだったので、今回のように事前に経験できて感謝」「被災者の(ボランティアを受け入れる)負担を考慮し、ボランティアしない日を設ける大切さを知った」など、多くの感想を分かち合いました。

今回、主催者として何より驚いたのは、東海地区だけでなく、九州、広島、東京方面から、しかも被災現場で中心となって活動している方々が多く参加して下さったことです。近年、自然災害が全国で多発し、



いたるところで人手不足となったことから、実務的な研修のニーズの高さがうかがえました。また、被災現場の「混乱」を疑似体験することが、災害に具体的に備えていくためにはとても有益だと感じました。

今後、現場リーダー育成のための「災害ボランティアセンター実務講座②」、「グリーフケア・傾聴」などのセミナーを企画しています。詳しくは、ハンガーゼロ愛知事務所(TEL: 052-265-7101, Email: aichi@jifh.org)までお問い合わせください。(報告：アム星野絢子)



2019年のキャンプは、昨年を引き続きウガンダ共和国。親善大使「ナイトde ライト」のメンバー4人と参加者11人、HZスタッフ2人の総勢17人で、夏のウガンダに行ってきました。参加者の中には、初海外旅行で初アフリカという方もいて、全員が不安と期待を抱えながら空港に集合しました。最終日には「日本に帰りたくない」との声も聞かれ、みんなウガンダの自然やウガンダの人たちが大好きになったようです。そんなウガンダの魅力と体験をお届けします。

## 何をもって豊かなの

横山和子さん

今回のウガンダツアーは、費用の面と本当に行くべきか祈る中で聖書の言葉が目にとまり、行くことを決めました。実際の働きを見てみたいという願いもありました。まず、印象的だったのは子どもたちの笑顔です。多くの子どもたちが素敵な笑顔と握手で迎えて、私たちに名前を聞いてくれ、礼儀正しく、また無邪気に膝に座ってくる子どもたちに心が温かくなりました。生活は豊かではないと思いますが、心がつながる温かさ、豊かさがあるなと感じました。

伸び伸びとグラウンドを走り回り、一緒に作った凧や縄跳び、ボールなど、そこにあるもので友だちと楽しく遊んでいるウガンダの子どもたち。画面を見続けている日本の子どもより健康的だなと感じました。また、FHウガンダが地域の生活改善、子どもの教育、社会を変えることに大きく貢献していることを感じました。(写真：横山さんはご夫妻で参加されています)



ナイト de ライトのチャイルドのハジャラ君の10才の誕生日を皆でお祝いできたことも良かったです。両親はいなくなり、おばあちゃんに育てられているハジャラ君は生まれて初めての誕生日のお祝いに、時折涙ぐんでいました。この日のことを彼が忘れず自分の夢を追い求め、リーダーとなって国を変えていく可能性もあるのではないかと思います。

衝撃的だったのは洗濯体験です。私にとって汚い水たまりのような所の水を使って手洗いをします。子どもの数も多く、お母さんの労苦はいかばかりかと思いました。

夫(ゴスペルシンガー)が作詞・作曲した「主の恵みはどこしえまで」を、福島県で出会ったウガンダ人に翻訳してもらい、日本人メンバー全員で歌うことができたのも恵みでした。ウガンダでの働きを見て、支援とはどちらが上、下ではなく、同じ時代を共に生きる者として、足りている者が足りていない者を助ける。自分が持てるもので祝福し合う、互いの違いから学ぶということを教えられました。

何をもって豊かなのか、何をもって幸せなのかということを考えさせられる旅ともなりました。

## 新しい刺激を受けた毎日

尾崎聖也さん

ながいながいフライトを終えてようやくたどり着いたウガンダの地はととても暑くて、2月の富山県からやってきた僕の体からは汗が噴き出しました。

エンデベ空港からFHウガンダオフィスのある首都カンパラに向かう途中のバスからは、3、4人乗りしているバイク、フルーツを山盛りに入れたカゴを頭に載せて歩く婦人、銃を携行した警察官、道端を歩く鶏や牛やヤギを見ました。日本を発ってから4日目の朝、ナムトゥンバ地区を初めて訪れました。

そこにいる人は私たちを見て、不審がっている目つきでしたが、手を振るとみんな笑顔で応えてくれました。今回の旅を通してもっとも来て良かったと思ったのは現地の子



どもたちと触れ合えたことでした。子どもたちは元気いっぱい、好奇心も旺盛で、瞳はいつも輝いていました。カメラを向けるとキャッキヤとはしゃぎながら友だちと肩を組んだり、折り紙で凧を作ると喜んで外へ走っていき、次の日はボロボロになった凧を直すよう頼んできたり、裸足でサッカーもしていました。日本にいる時はこんな凧で子どもたちが喜んでくれるのか不安でしたが、そんな凧でも楽しそうに遊んでくれる子どもたちを見ていると僕の心が洗われるようでした。ウガンダに行かなければ自分の心が汚れていることにも気づけませんでした。子どもたちと触れ合う度に、この子の今日が昨日より良いものになればと思いましたが、この旅は毎日新しい刺激をたくさんもらって、子どもたちの笑顔に癒されて僕の気持ちが救われる旅でした。



## ウガンダの持つ豊かさ

信濃 健さん

私は、アフリカは発展途上国であり日本は豊かであるから先進国というイメージで世界を見てきました。しかしこのツアーで今まで持っていたアフリカに対するイメージが崩され、改めて日本とアフリカの持つ良い面、悪い面を実感することができました。

参加者の1人がサポートしている子どもの家を訪問したり、村の人たちの生活を体験する水汲みや洗濯などをしたりしました。大人と子どもが協力して家事をしている姿を見て、日本では親と子が一緒になって過ごす時間が少なく、ネットに依存していることを思い起こさせられ、ウガンダの人の時間の使い方がとても豊かであることに気がきました。

次に私が豊かさを感じたのはウガンダの人たちの内面です。私と同じ世代の青年や子どもたちに、将来の夢を尋ねると、医者や教師が多く挙げられました。最初は日本と似ていると思いましたが、その背後には彼ら自身が経験した今までの苦しみがあることに気づきました。苦しみを理解したからこそ、それに立ち向かい、次世代のウガンダを担っていくんだという彼らの思いを強く感じました。

3つ目は豊かな自然です。どこまでも広がる大地、多種多様な鳥など、どれもとても綺麗でした。ナイル川源流観光でも広大な自然に圧倒されました。私はこのツアーを通して、ウガンダが持つ豊かさを現地で実感し、また日本の豊かなところ、欠けているところを見直す機会ともなりました。



## 今あるものに感謝する

渥美愛香さん

小さい頃「世界には食べられない人がたくさんいる」と何度も親に言われた記憶があります。それは遠い国の話で今の自分には関係ないし、分からないと思っていました。でも現地の人と出会い、食べ物を知り生活を体験したその一つ一つで、遠い国だったウガンダが身近な場所へと変化しました。「水をちょうだい」と言ってくる子がたくさんいたり、きっとお腹が空いているんだろうなと思う子もいて、「世界には食べられない人がいる」ことを本当の意味で知ることができました。

子どもたちに夢を聞くと「パイロット、ナース、ドクター、エンジニア」などと答え、自分のためだけではなく町をよくしたい! 町のために働きたい! という気持ちを持っていて凄いなと思いました。日本では嫌々仕方なく学校に行く、夢はないけどとりあえず進学しておこうという人も多くいます。ウガンダの子どもたちが学校の設備が整っていないなくても、勉強部屋がなくても、楽しんで、喜んで、勉強する姿を見て、私たちは贅沢だなと思いました。

私たちは、今の生活ですでに満ち足りているということを忘れてしまい「もっと欲しい、もっと欲しい」と、無いものに目をとめてしまうばかりだけれど、ウガンダの人たちを見て、今あるものに感謝をすることが大切だと学びました。

※他の参加者の体験記は、ハンガーゼロのウェブサイトに掲載させていただきます。





## 貧困の現実を知っていききたい



私はツアーを通して、「与える」という行為は喜んで捧げる気持ちがその土台としてあり、神さまはその愛による行いを喜ばれるということを知りました。これまではちっぽけな自分が貧困の中にある人たちのために出来ることなどないのではないか、と考えていましたが、たとえ小さなことでも、そのひとつに愛をこめて捧げることが大切なのだと知りました。

### 感謝と慈しみの心を

また、ナイト de ライトの『大家族』という曲を聞いて、私は八木重吉の詩と通ずるところを見つけました。それは、「世の中の人みんながひとつの家に住まえたなら、与えるという気持ちも受けるという気持ちもなく、ただ慈しみ、ただ感謝する」という内容で「受けるよりは与える方が幸いである」という言葉の本質を表しているように思います。

これからは一部の先進国の利益のためではなく、地球全体の利益のためと捉えて考えなければならないと思いました。だから、まずは貧困の現実を知っていききたいです。そして私が普段当たり前に使っているものはどれも当たり前のことではないことを覚えて、感謝を忘れないようにしたいです。必要なものは全て与えられているのだから、今あるもので満ち足りるような心の豊かさやゆとりを持っていきたいです。

### 自分の中の… 弟エマニュエル

青木美柚さん

私にとってこのウガンダツアーは、これまでの自分の考え方や人生観が完全に変わられるような大きな経験でした。遠く離れた国で暮らす人たちと関わり、自分たちとは全く異なる生活や価値観に触れて、今まで自分が当たり前だと思い込んでいたことはどれも当たり前のことではないと知りました。また人と人との繋がりの大切さも改めて実感しました。

何よりもいちばん心に残っているのは、自分のサポート・チャイルドであるエマニュエルに会えたことです。チャイルドサポーターを通してエマニュエルと繋がってから6年ほどになりますが、始めた頃はまさか会える日が来るなんて思ってもみなかったのが、本当に夢のようでした。今まで手紙と写真でしか彼のことを知らず、一応自分の中では弟だと考えていましたが、どのように暮らしているのか想像もつかず「よく知らない日本人が訪ねて行って果たして歓迎されるのだろうか」と不安でとても緊張していました。

### つながり自体が子どもの希望に

いざ彼と会って声を聞いた時は感動で胸がいっぱいになりました。さらに、「サポートを受けたその日が忘れられないくらい幸せだった。」という言葉聞いて、チャイルドサポーターというつながり自体が子どもたちに希望を与えていると知り、とても嬉しく感じました。私はエマニュエルやこの村の人たちのために直接何かしているわけではないけれど、たくさんのあたたかい歓迎をして貰えたことで、遠く離れた国で暮らす一見自分とは関わりがないように思える人たちと、こうしてつながることができるのは実に幸せなことであり、神さまがくださったこの出会いに感謝したいと改めて感じました。



チャイルドサポーターでは、これらの国々のサポート・チャイルドを応援して下さるサポーターさんを募集しています。お申し込みは最終頁や専用 HP から。



2011.3.11

# 東日本大震災から



# 8年



## 悲しみを抱えながらも復興に進む人々の決意を感じました

8年という時間が長いのか、短いかは、お一人、お一人異なると思います。被害を受けた地域の交通インフラや建築物などの公的な部分は、確実に復興していることが手に取るように分かります。個の部分でも、復興公営住宅に移られ、生活が安定した方もいる一方、地元紙の報道で「(入居時よりも)復興公営住宅入居の基準よりも収入が高くなってしまったので『ここから出ていくように』という通達が届いた。終の住処<sup>ついすみか</sup>と思って入居したのに、これから年齢(50代)を重ねていく自分は一体どうすればいいのか」とか「8年が経過しても悲しみは癒えることはない」という言葉も書かれていました。復興へ進む現実と決して無くなることのない悲しみの狭間にいる方々の気持ちが綴られていました。

だよ』『1年健康で過ごして、今日また会いに来ることができたわ』『(去年買った)CDを毎日聞いているんだ。』と、森親善大使の再訪を待っていてくださる方々がたくさんおられました。

8年目の東北は、悲しみを抱えつつも前に進もうとしている一人一人の決意が感じられた時でもありました。東北以外では『震災の風化』が感じられます。2011年以降、



## 東北訪問を続ける森親善大使

そんな中、宮城県の4ヶ所で森祐理親善大使のコンサートが行われました。森親善大使は、これまで150回以上東北の地を訪れ「心の救援物資」として、多くの方々に励ましと慰めの歌声を届けてくださっています。各会場では『去年は仮設住宅だったけど、今は、新しい家に移ったん

地震に限らず、毎年大きな自然災害が日本各地で発生しています。私自身被災した一人として、他地域の人たちに、また後世に、災害時に命をどう守るのかを伝えていく責任があることを思います。

報告・ハンガーゼロ伊東 綾

### ご案内

8年前の東日本大震災、3年前の熊本地震、さらに昨年の西日本豪雨、大阪北部地震、北海道胆振東部地震で被災された方々を覚えながら、いま私たちにできることを共に考えます。ハンガーゼロ森親善大使のコンサートとともに緊急支援担当伊東綾スタッフが被災地での活動を報告します。ご来会ください。

## 2019災害復興支援の集い

5月12日(日) 開場15:30 / 開演16:00  
大阪クリスチャンセンター OCC ホール

**[入場無料]** ※席上で被災地支援募金があります

- 心の絆コンサート 森 祐理(福音歌手)
- 被災地支援報告 伊東 綾(ハンガーゼロ)
- 被災地への想い 岸本大樹(OCC理事長)

会場：大阪府中央区玉造2丁目26-47

電話：06-6762-7701



ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。



## 便利なポシェット スマホやペットボトル入れに ～ボリビアから～

ボリビア製のアグアヨ(布)を部分的に用いています。  
サイズ: 巾約10cm 高約20cm  
まち約3cm ※500mlボトルOK  
\*1点1,000円  
\*送料360円  
\*3点まとめて同一箇所へお届けの場合 送料無料  
\*ハンガーゼロ会員特典: 2点まとめて同一箇所へお届けの場合 送料無料  
(会員番号をお知らせください)  
\*商品は1点物のため色、デザインの選択はおまかせ下さい。  
数量に限りがありますのでお一人3点までとさせていただきます。  
◎お支払い: 後払い  
郵便局払込で株式会社キングダムビジネス口座へ。

### 【お申し込み先】

株式会社キングダムビジネス  
電話 06(6755)4877  
ウェブサイトからも、  
注文ができます。



## 「第6回メサイアコンサート」

佐倉メサイアをうたう会

同会主催による「メサイアコンサート」(指揮:春日保人)が、5月18日(土)午後1時(開場12時半)から千葉県佐倉市民音楽ホールで開催されます。このコンサートは佐倉教会有志を中心に2年毎に開催されています。今回もコンサート収益から寄付(ケニアの小学校トイレ設置)をしていただきます。チケットは2,500円(全席)、申し込みは事務局にメールで sakura.messiah@gmail.com 又はチケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード133276] などから。



## 書き損じ「はがき」で協力を

郵便局などで発売された「はがき」で書き損じたものやポストに未投函のもの(古い年賀状・切手もOK。汚れは不可)がありましたら、大阪事務所までお送りください。活動の支援になります。

## 4/20 東京事務所で写真講座



ハンガーゼロ東京事務所で4月20日(土)に「人に伝わる写真の撮り方講座」(午前10時半～午後3時半)を開催します。講師は鉄道、報道系、食べ物系、モデル入り撮影などのジャンルで写真撮影をされているスチルカメラマンの神森沙織さん。参加費は500円。申し込みは、フェイスブックページで「参加」又は、メール: tokyo@jifh.org、電話: 03-3518-0781 まで。

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

## サポーターお申し込み欄 FAX072-920-2155

氏名			
(TEL)			
住所	〒		
申込日	年	月	日 NL 345号
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください		
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月( )円 □ (1□1,000円) ②一時募金として 円協力します。		
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月( )円 □ (1□500円)		
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。		
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。		
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。		

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **4560** □

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロで検索!

Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック facebook でハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト  
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構  
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1  
TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155  
東京(広島) 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室  
TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782  
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F  
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132  
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号  
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216  
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605  
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター